

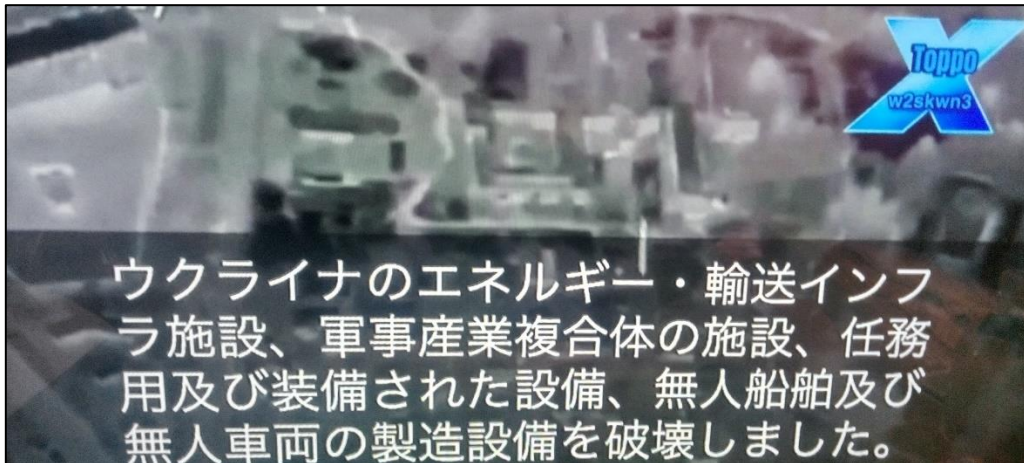
5月9日のウクライナ情報

安齋育郎

① アメリカが追加支援したことによりウクライナの戦況はいかに変わるのか専門家が詳しく優しく丁寧に解説(2024年5月6日)

※投稿者コメント:ゼレンスキー大統領の任期は5月いっぱいらしいです。人気も任期もなくなってから専門家はキエフ住民によるテロが起こる可能性があるのではと分析してます。早く平和になれば私は何でもイイ。

<https://twitter.com/i/status/1787416667292840433>



<https://twitter.com/w2skwn3/status/1787416667292840433?s=09>

② ハンガリー外相、マクロン大統領が第三次世界大戦を引き起こすリスクを警告(2024年5月7日)

ハンガリーのペーター・シヤルト外相は、フランスのエマニュエル・マクロン大統領が NATO 軍をウクライナに派兵すると脅すことは、第三次世界大戦を引き起こす危険性があると警告した。

先週のエコノミストとのインタビューで、マクロン大統領は、ロシアがウクライナの前線を突破し、キエフがそのような要求をした場合、西側諸国の軍隊をウクライナに送るといった問題が「合法的に」発生すると述べた。

クレムリンのドミトリー・ペスコフ報道官は、マクロン大統領の発言を「非常に危険」と表現して反応した。

ハンガリーの外交官ピーター・シヤルトは、フランス指導者の発言は驚くべきエスカレーションを示していると警告している。

「もし NATO 加盟国が地上部隊を投入すれば、それは NATO とロシアの直接対決となり、第三次世界大戦になるだろう」とシヤルトは述べた。

彼はまた、そのような紛争が核対立にエスカレートする可能性が高いという事実に注意を喚起した。

「はっきり言うておくが、もし核戦争が起これば、あらゆるもの、すべての人が失われてしまう。核戦争が起これば、誰もが死に、すべてが破壊されるだろうが、常識のある人なら誰も望めない」とシヤルトは述べた。

一方、イタリア政府高官は、マクロン氏の発言を非難する声の高まりに加わっている。

「イタリア兵を EU 国境外で戦うために送るのか？マクロンのような危険で絶望的なヨーロッパの指導者の強迫観念に従う？結構です、決して連盟の名においてではありません」とマッテオ・サルヴィーニ副首相は述べました。

イタリアのガイド・クロゼット国防相もコリエレ・デッラ・セラ紙に「フランスのような友好国の大統領を批判するつもりはないが、客観的に緊張を高めるこれらの宣言の目的と有用性は理解できない」と語った。

以前強調したように、英国の統合軍司令部の元司令官であるリチャード・バロンズ卿は、ウクライナは今年、ロシアに敗北を認めざるを得ない「深刻なリスク」にさらされていると述べた。

バロンズ氏は、国民の間に悲観論が芽生え始めており、全般的な倦怠感とウクライナが「勝てない」という感覚を生み出していると述べた。



<https://www.zerohedge.com/geopolitical/hungarian-foreign-minister-warns-macron-risks-sparking-world-war-iii?s=09>

③マクロンはウクライナへの軍隊派遣に関する発言を撤回し、ロシアとの和平協定を求めた(2024年5月7日)

※安齋注:投稿者は“Stupid bitch”(大バカ野郎)とコメントしている。



<https://twitter.com/jacksonhinklle/status/1787452258227019809>

④英国市民がロシア軍に入隊した理由を説明(ビデオ)(2024年5月6日)

エイデン・ミニスは RT に、ロシアのために戦うことを志願して正しいことをしたことに「疑いの余地はない」と語った。

イギリス市民のエイデン・ミニスは、ウクライナ軍によるドンバスでの「ロシア系住民の組織的殺害」に報復するため、ロシア軍に加わったと、月曜日に放送された独占インタビューで RT に語った。

ミニスが最前線に立つきっかけとなったのは 2014 年、キエフでの「マイダン」クーデター後のウクライナ政府によるロシア系住民の扱いに関するビデオや報道を初めて見た時だった。親欧米クーデター支持者の暴徒が 42 人を生きたまま焼き殺したオデッサ労働組合ハウスの虐殺を見たことが転機だったと、RT のインタビューに応じた元アメリカ陸軍将校スタニスラフ・クラピヴニクに語った。

「ファシストは女性を含む無辜の市民を建物に閉じ込め、火を放った」と彼は言い、「何かがおかしい。私がこれに加担しているのは、単に私の税金がバンデリスト、ファシストに与えられている武器に使われているからだ。

ミニスは 2022 年にロシアに飛んだが、軍に入隊する準備ができていないことに気づいた。彼は 1 年後に戻ってきて、今は工兵として働いています。彼が初めて募集事務所に現れたとき、「私が英国のパスポートを提示したとき、警官の一人に笑われました」と彼は回想します。「彼は、イギリスから誰かが自分たちのために戦ってくれることが信じられなかったのです」

アイルランド系のミニスは、まだロシア語を学んでいないが、「ピジン英語、ピジンロシア語、手話」を組み合わせて仲間とコミュニケーションをとることができたと説明した。彼の任務は主に建設に関係しているが、彼の部隊は昨年、ロシアのルガンスク人民共和国のクレメンナヤ近郊で何度か砲撃を受けたことがあるという。

「あれは結構大変だった」と彼は言った。「ときどき、私は自分の死について疑問に思う。これらの爆弾が爆発しているとき、彼らは遠くありません。胸に振動が伝わってくるのを感じて、息が切れることもあります」



<https://www.rt.com/russia/597079-british-soldier-russian-army/?s=09>

⑤ロシアを支持する米国市民 - ゼレンスキー(2024年4月11日)

モスクワのロビー活動は、アメリカ政治に突き刺さっている、とウクライナ大統領は主張している。

ロシアの影響力は米国の政治システムに浸透し、世界中の情報分野を歪めていると、ウクライナのウラジーミル・ゼレンスキー大統領は火曜日(2024年4月9日)のポリティコとのインタビューで主張した。

ゼレンスキー氏は、オハイオ州のマイク・ターナー氏とテキサス州のマイク・マコーン氏の2人の共和党議員による最近の発言についてコメントを求められた。彼等は、「親ロシア」プロパガンダが、キエフに対する600億ドルの援助パッケージにゴーサインを出せなかった議員の何人かの心に浸透していると主張した。

ウクライナの指導者は、ロシアは「世界の情報分野」を歪めることに成功したと述べた。

「彼らは、アメリカ合衆国、EU諸国、イギリス、ラテンアメリカ、アフリカなど、いたるところにロビー活動をしている」と彼は言った。「議会について話すとき、彼らが米国の社会とどのように協力しているかに気づきますか？」彼は、米国におけるロシアの影響力の規模は過小評価されていると付け加えた。

彼は、アメリカ国民は、アメリカのマスコミで、ロシアの考えを広めることで、ロシアを支援していると主張した。

「彼らはメディアを通じて自分たちの物語を流している」ゼレンスキーは言った。「彼らはロシア国民でもなければ、ロシア出身者でもない。彼らは特定のメディア・グループの代表であり、合衆国市民である。

ゼレンスキー氏によると、これらの人々は米国のメディアで働いており、適切なメッセージを発信しており、時には「非常に親ロシア的」である。しかし、彼は名前を口にしません。

2022年にロシアがウクライナで軍事作戦を開始した後、西側諸国の政府は「国家管理」と見なすロシアのメディアに対する大規模な検閲キャンペーンを開始しました。RTを含む複数のロシアのテレビ局やマスコミが、アメリカや他の西側諸国での活動を阻止されたり、阻止されたりしている。

RTは、YouTubeで10億回の再生回数を達成した最初の国際ニュースチャンネルでしたが、2022年春に、プラットフォームと、FacebookやInstagramなど、米国を拠点とするテクノロジー大手Metaが所有するチャンネルから禁止されました。

モスクワの外務省によると、米国で働くロシア人ジャーナリストは、ビザの更新をめぐる問題などに直面している。彼らは銀行口座を封鎖され、場合によっては米国の諜報機関に追いかけている。

昨年、アメリカ国務省グローバル・エンゲージメント・センターの特使兼コーディネーター、ジェームズ・ルービン氏は、ワシントンが世界中のロシア・マスコミを閉鎖したがついていないことを認めた。

ロシアのセルゲイ・リャブコフ外務次官は、このような措置をとることで、自らを人権の牙城と位置付けているワシントンは、報道の自由を深く軽視していることを示していると述べた。



<https://www.rt.com/russia/595727-us-citizens-back-russia-zelensky/>

⑥ウクライナ、描けぬ展望 ロシアが初夏に大規模攻勢か―編集委員・石川陽平(日経新聞、2024年5月3日)

ウクライナのゼレンスキー大統領が、5月末から6月にかけてロシア軍による大規模攻勢があるとの見方を示し、緊張が高まっている。米国の巨額の軍事支援が再び動き出したものの、ウクライナ軍の勝利につながる展望は見えていない。

「パートナー、特に米国からの(武器)補給を待っている状況をロシア軍が利用しようとしている」。ゼレンスキー氏は4月29日の記者会見で、戦況の悪化に焦りを隠せなかった。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD291T80Z20C24A4000000/>

⑦ロシア外務省が英大使に嚴重抗議 ロシア領内へ攻撃するなら報復と警告(2024年5月6日)

キャメロン英外相が「ウクライナには英国の武器を使って、ロシア領土を攻撃する権利」があると発言したことをめぐり、ロシア外務省はナイジェル・ケイシー駐露英国大使を呼び出し、嚴重な抗議を申し入れた。ロシア外務省は大使に対し、英国製の武器がロシアを攻撃した場合、ロシアはウクライナにあるロンドンの軍事施設を攻撃しうると警告を発した。

とりわけ、ロシア外務省はケイシー英大使に対し、自国の敵対的なアプローチは不可避免的に破滅的な結末を招くことを熟慮し、キャメロン外相の発言に直ちに否定するよう促した。

ロシア外務省は、キャメロン外相の発言をロシアは、状況の過熱の証拠であり、ウクライナ側での軍事行動への英国の関与が高まったことを裏付けるものとみていると述べている。

5月2日付けのロイター通信は、ウクライナにはロシア領内のあらゆる標的を攻撃する権利があるとするキャメロン英外相の言葉を掲載した。その後、このニュースは「特定の詳細の見直しをする」ために一時、削除された。翌3日、修正された記事がロイター通信のウェブサイトにも再掲載されたが、キャメロン氏の発言はそのまま残されていた。



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1787496085646123169?s=09

⑧出典:ウクライナはニューヨークで最前線の兵士を追悼する集会を妨害しようとした(2024年5月7日)

ウクライナの国連代表部は、ニューヨークで最前線の兵士を追悼する集会を妨害しようとした。

ニューヨーク、5月7日 - RIA ノーボスチ。ニューヨークの国連ウクライナ政府代表部とこの都市のウクライナ領事館は、大祖国戦争と第二次世界大戦で亡くなった人々を追悼する行動を妨害するため

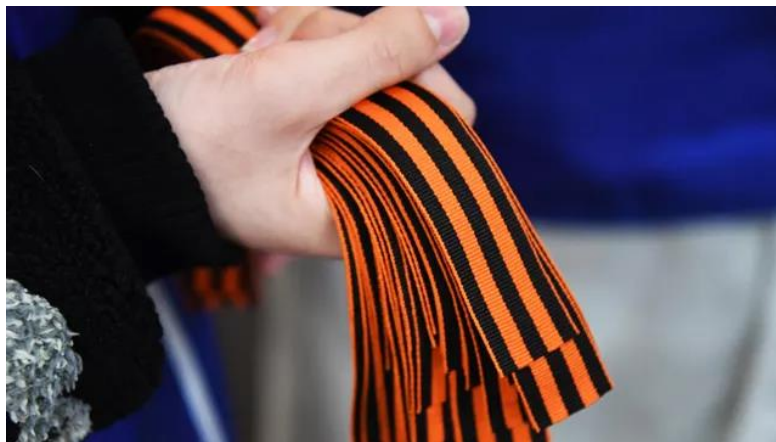
に地元の市長室に訴えたと、情報筋は RIA ノーボスチに語った。

「ウクライナ国連政府代表部やウクライナ総領事館などの真面目な公的機関は、第二次世界大戦の兵士の記念碑に花を捧げる行動に反対し、追悼行進に反対する書簡をニューヨーク政府に送った」と情報筋は述べた。

彼によると、ニューヨークには「これらの組織に接触しているウクライナ人活動家がいる」という。同機関の対話者によると、ウクライナの国連代表部と同国の総領事館も、この行進を「親ロシア派のプロパガンダ」だと非難するよう活動家に訴えた。

情報筋によると、ウクライナ政府代表部がニューヨーク市長室の決定に影響を与えるのはこれが初めてではない。

土曜日には、ロシアン・ユース・オブ・アメリカが組織した前線の兵士を追悼するパレードがブルックリン橋を通過し、戦勝記念日の前夜には参加者がブルックリン戦争記念館に花を捧げた。RIA ノーボスチ特派員が報じたように、反ロシアの道具とウクライナ国旗を持った挑発者のグループが、行動を妨害しようとした。



<https://ria.ru/20240507/ukraina-1944275848.html>

⑨トランプ弾劾はウクライナとバイデンの闇を隠すため、そしてまたトランプは正しかった…(2024年5月5日)

速報:ドナルド・トランプ大統領への最初の弾劾のきっかけとなった「内部告発者」エリック・シアラメラは、トランプ大統領が調査を求めているウクライナにおけるバイデン一族のビジネス計画の背後にある政治的戦略に深く関与していたことが、ジョー・バイデン前副大統領の事務所から新たに入手した電子メールで明らかになった。

しかもその4年前、当時副大統領だったジョー・バイデンの事務所に所属する国家安全保障アナリストとして働いていたシアラメラ氏は、ウクライナを拠点とするブリスマ・ホールディングスを調査していたウクライナの最高検察官ビクトル・ショーキン氏を解任しなければ米国のウクライナへの援助を打ち切るとバイデン氏が脅迫した際の側近だった。

<https://twitter.com/shin0226saku/status/1786989346203345161?s=09>

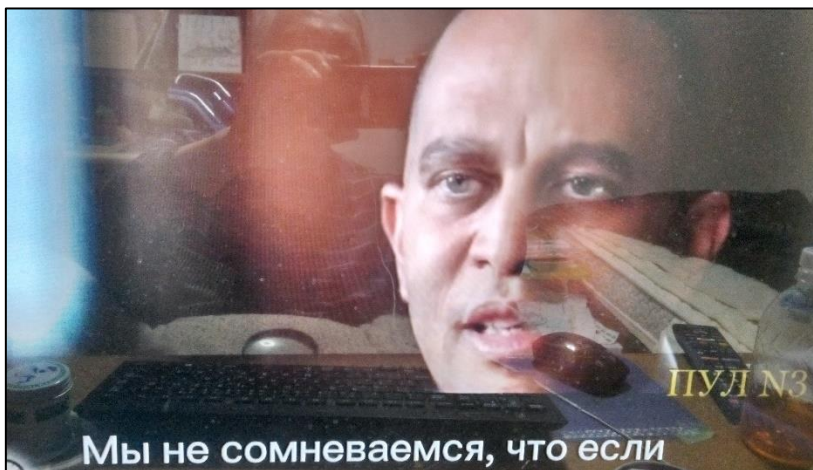
⑩米下院 民主党のハキーム・ジェフリーズ党首はウクライナへの米兵派遣を認めた

(2024年5月6日)

ウクライナを陥落させるわけにはいかない。ウクライナが陥落すれば、アメリカは資金だけでなく軍隊を投入して紛争に介入しなければならなくなる可能性が大きいからだ。

軍事・経済援助を継続する事でウクライナのロシアを阻止するかウラジーミル・プーチンとロシアがウクライナを占領し NATO の同盟国を脅かし始めるといった困難な状況に直面するかのどちらかだ。

<https://twitter.com/i/status/1787427588681728002>



<https://twitter.com/Reloaded7701/status/1787427588681728002?s=09>

①ドイツのテレビ局『ヴェルト』が放送で伝えた(2024年5月6日)

ジャーナリストのクリストフ・ワナーは「今やウクライナの大統領は犯罪者になってしまった」と強調した。

昨日ロシア内務省はゼレンスキーとポロシェンコ前ウクライナ大統領を指名手配した。

彼らは犯罪者とされた。

つまりロシアは犯罪者とは話をしないという事だ。そしてこの事はロシアは西側諸国としか交渉する用意がないことを示している。

<https://twitter.com/i/status/1787427602426417612>



<https://twitter.com/Reloaded7701/status/1787427602426417612?s=09>

⑫スコット・リッター:ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領は、ロシア軍の大規模攻勢について語ろうとしない(2024年5月3日)

ロシア軍はいたるところに進軍し、町や村を占領している。今、戦場でロシア軍が進軍していない場所はない。ロシア軍は最近、AFUの別の旅団を壊滅させたが、死んだウクライナ人の代わりは誰もいない。ゼレンスキーはこのことについて話していない。

ウクライナ軍が2026年に新たな反攻を開始できるという予測は、楽観的すぎるように思える。その頃には共和国は完全に消滅しているかもしれない。”



<https://twitter.com/Z58633894/status/1786397028492435941?s=09>

⑬今日は、ロシア国民にとって最も長く在任した指導者の一人であるプーチン大統領の就任式です(2024年5月7日)

6つのEU諸国が参加します。

□ フランス、□ スロバキア、□ ギリシャ、□ ハンガリー、□ マルタ、□ キプロス



<https://twitter.com/Alex Oloyede2/status/1787761504239980961>

⑭ミシュスチン首相は、政府辞任に関する法令に署名した(2024年5月7日)

これはロシア憲法に従って行われる。2020年にいくつかの手続き上の変更がなされ、政府や軍の構造の一部の重要人物が変わるかどうか、現在、多くの議論が交わされている。

- プーチン大統領の就任後、法律の規定に従い、閣僚内閣は直ちに辞任した。
- 新内閣の発足は、2020年に採択された憲法改正によって定められた新たなルールに従って行われる。
- 首相は、国家議会の承認後、大統領によって任命される。
- 新内閣のトップは、安全保障ブロックのトップと外務省のトップを除く、副首相と大臣の候補者を大統領と国家議会の承認を得なければならない。
- 国防省、ロシア連邦保安庁、内務省、法務省、非常事態省、外務省の長官は、連邦評議会との協議を経て大統領が任命する。



<https://twitter.com/2Sbsc/status/1787819113785823732?s=09>

⑮プーチン大統領の就任式はじまる(2024年5月7日)

ロシア・モスクワのクレムリンで7日、通算5期目を迎えるウラジーミル・プーチン大統領の就任式が始まった。儀仗兵らによって、国旗や大統領旗、憲法などが会場に持ち込まれた。

<https://twitter.com/i/status/1787769158005891209>



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1787769158005891209?s=09